

博物館だより

第34号

第36回特別展

時衆の美術と文芸

遊行聖の世界

開催される



国宝『一遍聖絵』第四巻五段 小田切の里の踊り念仏

信濃国佐久郡小田切の里の武士の家で、念仏を唱えるうちに無我の境地に至り踊り出す時衆たち。踊り念仏の始まりである。

第36回特別展

時衆じしゅうの美術と文芸

～遊行聖ゆぎょうひじりの世界～

平成8年1月4日から1月28日まで、長野市立博物館特別展示室において、時衆に関する特別展を行います。

時衆とは、鎌倉時代中頃に活躍した、一遍上人を祖師とする教団のことで、現在いうところの、「時宗」にあたります。時衆が教団として確立するのは、一遍の教えを継承した二祖の他阿弥陀仏真教の頃からです。時衆とは一遍上人を開祖と仰ぐ教団の中世における呼称です。

この展示では、時衆の残した文化財を通して、中世文化の一端を紹介します。

阿弥陀三尊像（善光寺式）（群馬 青蓮寺）

寺伝では平安時代の武将源頼義の守本尊というが、実際の制作は鎌倉時代中期。脇侍の天衣が膝の上下で二本のU字形をえがくのは、信州・善光寺から移したという山梨・善光寺の本尊（建久六年（一一九五）と一致し、古い形式）



一遍上人立像（京都 長楽寺）

もと七条道場金光寺に伝来。像内銘により、応永二十七年（1420）の康秀作と判明した。制作年の明らかな一遍彫像としては最古。康秀は代々七条道場の檀越だんおつであった七条仏所の仏師。

（国宝2点、重要文化財21点を含む、
総計約100点で展示を構成。）

【展示入れ替え予定】

◎国宝 ◎重要文化財 ◇都道府県指定文化財 △市町村指定文化財

品名	所蔵者	1月4日 ~15日	1月17日 ~28日
一遍上人立像	長楽寺
◎一遍上人立像	無量光寺
他阿上人真教坐像	法蓮寺
◎伝他阿上人真教倚像	長楽寺
吞海上人坐像	清浄光寺
△安国上人坐像	真福寺
◇一鎮上人倚像	称念寺
◇伝一鎮上人坐像	西郷寺
◇一向上人坐像	蓮台寺
△切阿上人坐像	高宮寺
◎阿弥陀如来立像(行快作)	阿弥陀寺
◎阿弥陀如来立像胎内文書	阿弥陀寺
阿弥陀三尊像	来迎寺
◎阿弥陀三尊像(善光寺式)	奈良国立博物館
◇阿弥陀三尊像(善光寺式)	青蓮寺
△阿弥陀三尊像(善光寺式)	善照寺
◇一遍上人像(絹本)	清浄光寺
◇一遍上人像(紙本)	清浄光寺
一遍・真教上人像	金蓮寺
他阿上人真教像	清浄光寺
◎他阿上人真教像	称念寺
△他阿上人真教像	高宮寺
◎一向上人像	清浄光寺
◇一向上人像	蓮華寺
一向上人臨終図	個人
浄阿真観像	金蓮寺
三代浄阿上人像	金蓮寺
◇二河白道図	清浄光寺
◎二河白道図	万福寺
△阿弥陀三尊来迎図	高宮寺
△阿弥陀三尊像(善光寺式)	高宮寺
△伝熊野権現影向図	高宮寺
●一遍聖絵	清浄光寺 ・歓喜光寺
◇遊行上人縁起絵	清浄光寺
◎遊行上人縁起絵	真光寺
◎遊行上人縁起絵	光明寺
◎遊行上人縁起絵	常称寺
遊行上人縁起絵	浄禅寺
遊行縁起	神奈川県立 歴史博物館
一向上人絵伝	蓮華寺
浄阿上人絵伝	金蓮寺
破来頓等絵巻模本	東京国立博物館
渡唐天神像(狩野昌安筆)	清浄光寺
△束帯天神像	一蓮寺
柿本人麿像	一蓮寺
◎七条道場文書真教上人書状	長楽寺
◎七条道場文書吞海上人書状	長楽寺
◎七条道場文書自空上人書状	長楽寺
◎七条道場文書知蓮上人書状	長楽寺
◎他阿上人白筆仮名消息	金台寺

品名	所蔵者	1月4日 ~15日	1月17日 ~28日
△一鎮上人書状	称念寺
本朝大仏師系図	長楽寺
一期不断念仏結番	清浄光寺
播州法語集	称名寺
別時念仏番帳	清浄光寺
道場誓文	清浄光寺
道場誓文	一蓮寺
他阿上人法語	成願寺
◎安食問答	清浄光寺
◎六時居讃	清浄光寺
和讃	清浄光寺
遊行八世廻国記	彰考館文庫
廿四祖御修行記	彰考館文庫
麻山集	向得寺
藤沢山過去帳	清浄光寺
◇一蓮寺過去帳	一蓮寺
◎陸波羅南北過去帳	蓮華寺
◇金台寺過去帳	金台寺
◎日本書紀(紙背和歌懐紙)	熱田神宮
古今和歌集(冷泉為和筆)	清浄光寺
花鳥餘情(伝一華堂乗阿筆)	清浄光寺
題会之庭訓并和歌会次第	清浄光寺
詞林采葉集	清浄光寺
◇足利義教連歌懐紙	円福寺
連歌懐紙断簡	清浄光寺
天正十四年連歌懐紙断簡	清浄光寺
宗牧巖島法楽百韻	清浄光寺
十二光箱	万福寺
鉦鼓	遍照寺
△鉦鼓	本福寺
△鉦鼓	金台寺
鉦鼓	蓮華寺
鉦架・鉦架支板	神奈川県立 歴史博物館
鉦架支板	神奈川県立 歴史博物館
持蓮華	清浄光寺
△持蓮華	西光寺
阿弥衣	金台寺
袈	清浄光寺
白銅御正躰	多賀大社
六字名号(伝一遍上人熊野名号拓本)	清浄光寺
六字名号(伝一遍上人筆)	小峰寺
六字名号(伝一遍上人筆)	清浄光寺
六字名号(伝二祖上人筆)	小峰寺
念仏札	清浄光寺
念仏札(掛軸)	清浄光寺
念仏札形木	無量光寺
△種子阿弥陀三尊陰刻板碑	光安寺
敵味方供養碑(レプリカ)	藤沢市教育委員会
一遍上人立像(レプリカ)	藤沢市教育委員会
一遍聖絵(レプリカ)	当館

博物館の収蔵資料から ⑥ ^{ぜんき}お善鬼さまのお守り「虫切り鎌」 (長野市小田切小鍋千木)

^{せんぼく}
(長野市小田切小鍋千木)

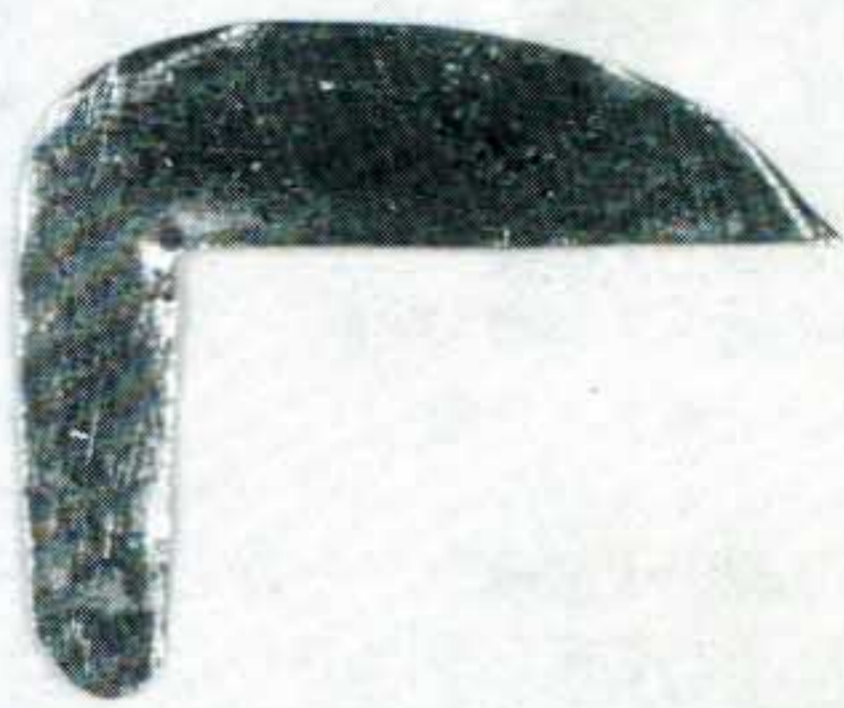
長野市小田切小鍋千木地区には、通称お善鬼さま（正式な神社名を^{みかまど}三竈神社という）と呼ばれるお宮（祭神は^{いわながひめのみこと}磐長姫命）があり、女性の山の神とされていますが、子育ての神・火防の神・受験の神などとしても信仰されています。また、戸隠に行く旅人を守ったり、薬草を煎じて病人を世話してくれたりするなど、困ったときはいつでも助けてくれる神として知られています。

「虫切り鎌」はお善鬼さまのお守りとされ、子どもの^{かん}癩の虫などを退治してくれることからこの名が付けました。祭りが近づくと、大人たちがブリキを鎌の形に切って子ども一人一人につくってあげました。また、お善鬼さまにお参りに来て願い事がかなった人は、絵馬に虫切り鎌の絵を描いてお礼参りとして奉納する習慣もありました。

お善鬼さまの祭りは5月8日、10月3日、1月15日の年3回行われ、一番盛大に行われるのはオヨウカと呼ばれる5月8日の祭りです。昔は近郷近在から多くの人が集まり、地区の子ども（小学6年生までの男女）は虫切り鎌を持って参拝に来た人たちの健康を祈り、そのお礼として参拝者は子どもにお賽銭を渡しました。このように、祭りになるとお賽銭をおこづかいとしてもらえるので、子どもたちにとっては楽しみな日でもありました。

また、三竈神社はお賽銭箱がない神社として知られています。これは、祭りのときに参拝者の投げるお賽銭を子どもたちが拾い易くするため、子ども好きなお善鬼さまもその姿を喜んで見ているといわれています。二度、お賽銭箱をつくったところ、チフスやコレラなどの流行病が蔓延したため、それ以後お賽銭箱は置かなくなりました。つまり、子どもの喜ぶ姿が見られなくなるため、お善鬼さまが流行病をおこしたというのです。また、お善鬼さまは花火が嫌いともいわれ、地区の祭りで花火をあげてはいけないといわれています。これは、花火が原因で火事にでもなれば一大事になるからです。このような祭りも、昭和30年ころからは当時の賑わいはなくなり、医療技術の発達とともに虫切り鎌もつくられなくなりました。

（文責 辻 浩子）



▲虫切り鎌(3.8×4.5センチ)



▲お礼参りで奉納された絵馬（虫切り鎌を描いたもの）

◀お礼参りで奉納された絵馬（虫切り鎌を打ち付けたもの）

博物館だより No.34 1995.12.22
編集・発行 長野市立博物館
〒381-22 長野市小島田町1414
☎ (026) 284-9011